

ぶどう「シャインマスカット」の短梢栽培における適正着果量

【1 成果の概要】

(1) ぶどう「シャインマスカット」の雨よけ被覆による短梢栽培では、主枝1mあたりの新梢本数を8本程度、1新梢あたりの着房数を0.8房程度とすることで、糖度17度以上、10aあたり1.6t程度の収量を確保できます(表1、2)。

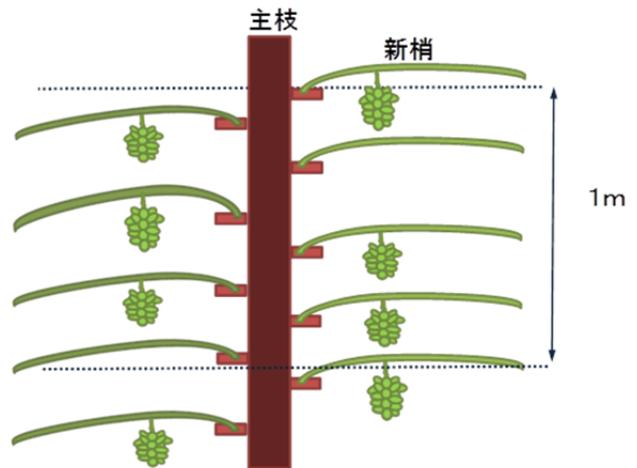


表1 主枝1mあたりの新梢本数の違いが果実品質等に及ぼす影響 (2014~2017年の平均)

新梢本数	LAI (指数)	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 (°Brix)	酸度 (g/100ml)	果皮色 (CC指数)	収量 (kg/10a)	新梢登熟率 (%)
5	0.9	486	11.4	17.9	0.37	3.4	1,106	90
8	1.5	528	12.9	17.8	0.37	3.1	1,916	91
11	2.0	455	11.3	16.9	0.47	2.9	2,316	96

1) 試験樹の概要：2008年定植、短梢平棚、H型整枝、新梢は棚下に下垂。発芽後から収穫終了まで雨よけトンネル被覆を実施。植栽距離4m×8m。1新梢あたり葉枚数：20~25枚。収穫期：9月下旬。

2) 着房数：0.8房/1新梢。

表2 1新梢あたりの着房数の違いが果実品質等に及ぼす影響 (2014~2018年(2017年除く))

着房数 (房/1新梢)	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 (°Brix)	酸度 (g/100ml)	果皮色 (CC指数)	収量 (kg/10a)	新梢登熟率 (%)
0.6	548	12.7	17.7	0.34	3.0	1,414	93
0.8	556	12.6	17.3	0.36	2.8	1,887	91
1.0	577	12.7	17.0	0.39	2.6	2,357	92

1) 試験樹の概要等は表1に同じ。

2) 主枝1mあたりの新梢本数：8本。

【2 留意事項】

- (1) 果房は、1房45粒、房重500g程度とし、収穫時の糖度17°以上を基準とします。
- (2) 着果過多は、熟期が遅れ発芽不良等の凍寒害が発生する恐れがあるので避けます。